

下仁田高等学校 学校評価一覧表② (令和2年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上である。	B	B	B	言語活動をできる限り授業に取り入れ、双方向型のわかりやすい授業を継続的にいき生徒が主体的に学習に取り組めるように努めた。	昨年よりも肯定的に考えている生徒が増えている。よい傾向であると考えられる。生徒の評価Bについては、生徒たちの不満とを感じる要因を追求して欲しい。	今後も言語活動の充実を図り双方向型のわかりやすい授業の実践や生徒の実態にあった教育活動を行う。自校に愛着や誇りを持てる教育活動を検討していく。
		② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が70%以上である。	A	A	A	基本的な学習事項の習得、定着に向けて、1年次は、国語・数学・英語において習熟度別指導、2・3年次は、コース別の少人数指導を実施し、基礎学力の向上に努めた。	きめ細かな指導に生徒も満足していて良好であると思われる。中学生が学校説明会に参加した際も少人数指導に好印象を持っている。入学後も同様に感じていることは素晴らしい。	習熟度別や少人数制の指導を強力に推進していく。落ち着いた学習環境を維持するためにさらなる授業改善に努める。
	2 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。	③ 「総合的な学習（探究）の時間」や学年行事等に、意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。	B	A	B	地域学習や行事については、内容等の見直しや改善を行いコロナ禍にもかかわらず例年以上の成果を挙げることができた。生徒の取組状況は各学年ともに概ね良好であった。	この学習が発表会にも繋がっており、良好な取組みだと思われる。	地域学習や行事の内容について工夫・改善を進め、生徒が積極的な姿勢と気持ちで取り組めるよう事前・事後指導に力を入れる。
		④ 「ぐんまコミュニティー・ハイスクール事業」等の地域と連携した事業や諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。	B	B	B	今年度は地域との連携については、物理的に制限されてしまった。中でも工夫しながら活動の幅を広げることができた。	今年度は活動そのものが難しく、その影響が出ていると思われる。よい取組があるので、継続して取り組んで欲しい。	地域との連携事業が、地域に役立つ人材育成という意味で意義ある活動であることを各教科の授業の中で指導していく。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が、70%以上である。	B	A	B	密にならないように場面の設定を工夫し、習熟度別指導や少人数指導に加え、コミュニケーションの充実を図った。また、個々の生徒状況に対応した個別の支援を心がけた。	個への対応がしっかりできていて、良好な取組である。	多様な生徒に対応するため、授業の全体指導の中に、一人一人の到達度に応じた「みとり」を充実させる。パフォーマンス評価などを取り入れ、教師間で情報を共有し、指導や評価にいかす。
		⑥ 多様な進路に対応した学習が役立っていると評価している生徒が70%以上である。	A	A	A	大学受験する生徒に対しては、模擬試験や小論文指導等、個別に対応し、学習を支援した。就職希望者には、筆記試験対策や面接練習など丁寧に指導した。	昨年よりも評価が高くなっている。成果がよい結果として出ている。資格取得やコース全体での体制整備、生徒への柔軟な対応が評価として出ている。	将来に向け、学力を身につけることの必要性を引き続き生徒に伝えていく。PTA活動や三者面談を通して保護者の理解や協力を促していく。
	4 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑦ 授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が70%以上である。	B	A	B	教師間で連携し、授業規律の確保をここ数年維持できている。授業態度は概ね良好である。	2回目の評価が高くなっているため、継続して取り組んで欲しい。生徒の実態に合った学習環境を整えて欲しい。	授業のあいさつの徹底や授業中のマナー違反を許さない体制を引き続き維持する。今後も授業規律の確保に努める。
		⑧ 学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。	A	B	B	一斉授業では補いきれない学習の遅れや授業内容以外の学習を行うため、放課後等の個別指導に教科・学年で協力して取り組んだ。	少人数指導の良さを活かしながら、個々の生徒に対して必要な支援を継続して欲しい。	今後も個に応じた指導を心掛ける。その際、カウンセラーや専門アドバイザーから助言をもらい、その手法を取り入れるなど、さらに指導法を工夫する。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。	B	B	B	面談週間に限らず、学校生活全ての場面で教師からの声掛けを実践するようにし、全職員で不安を抱える生徒への対応に努めた。その中で、情報の共有化を図るとともに、スクールカウンセラーや外部機関との連携を密にとるよう心掛けた。	相談、支援体制が整っていて良好である。しかし、相談できていない生徒が増えたことが気になる。支援体制の細部の見直しが必要ではないか。	面談週間に限らない、全職員による学校生活全ての場面での声掛けを継続して実施していく。スクールカウンセラーや外部機関との連携をさらに密にし、生徒理解を深める研修等も複数回実施していく。
		⑩ 部活動に加入し、継続的に活動している生徒が50%以上である。	B	C	B	設置する部活の精選、活動内容の改善に取り組んだ。活動が制限された中でも生徒の充実感が得られる部活動づくりに励んだ。	活動内容の見直しも必要と思われる。新型コロナウイルス感染症対策のために、活動が思うようにできなかった点もあるが、生徒が充実した学校生活を送れるように再考して欲しい。	安全な活動環境で、生徒の活動意欲が向上できる部活動等の設置について検討する。設置してある部活動が生徒にとって魅力あふれる活動となるよう指導方法等を検討していく。

Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪ 情報モラルや交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。	B	A	B	実生活での具体例を盛り込んだ講演会や実体験を通じた学習活動を企画・実施した。	情報モラル教育は、重要な取り組みであるので、継続して取り組んで欲しい。小中学校においても課題となっているので、高校まで連携して指導に当たっていくことが大事である。	来年度は、学校保健委員会において生徒が主体的に活動報告ができるように指導していきたい。	
		⑫ 欠席率5%以下、遅刻率は3%以下である。	A	B	A	遅刻指導を実施していく中で、改善が見られる生徒が増えてきた。長期欠席する生徒には保護者との連絡を密にとり、連携を深めるとともに、外部機関とも連携を図り対応した。	落ち着いた学校生活が送れていることが感じ取れる。	遅刻指導は継続して実施していく。長期欠席する生徒には保護者との連携をさらに密にしていくとともに、外部機関との相談体制を強化して早期に対応できるようにしていく。	
		⑬ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	A	A	A	多くの生徒が校内ルールを遵守して学校生活を送れるようになってきた。進路との関連を強く意識づけ、生徒の規範意識を向上できるよう取り組んだ。	生徒全員がルールを守っていこうとする姿勢がうかがえ、良いと思う。今後も指導を継続して欲しい。	授業規律の徹底、日頃の声掛けなどを根気強く行う。進路と関連づけた生徒指導を行い規範意識向上に努める。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑭ 学校はいじめの防止と早期発見を積極的に行っていると感じている生徒が85%以上である。	B	B	B	生徒からの申し出や情報に迅速かつ丁寧に対応できるよう、いじめ対策委員会を中心として組織的に取り組んだ。生徒会による年間を通じた「あいさつ運動」を実施し、学校全体で「いじめ撲滅」に取り組んでいるメッセージを伝えることができた。	未然防止と早期発見への取組を継続して欲しい。いじめの原因は様々であると思うが、個を尊重する気持ちをさらに育成して欲しい。	アンケートや面談等による情報収集のさらなる徹底、より綿密な職員間の情報共有を行い、学校全体で早期発見、早期解決に努めていく。また、生徒が主体となっていじめ防止に取り組む活動を増やすとともに、講演会の内容、時期を検討して実施し、いじめを許さない心を育てていく。	
		8 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 進路ファイル(含キャリアパスポート)に前向きに取り組んでいる生徒が70%以上である。	B	B	B	「進路ファイル(キャリアパスポート)」に対する取組はよく、「インターンシップの事前指導」にも前向きに取り組んでいた。	丁寧な進路指導をしていることが、うかがえる。今後も充実した指導を期待している。	「進路ファイル(キャリアパスポート)」の活用法について職員にアンケートを取り、さらに改善していく。
			⑯ 進路関連行事に意欲的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	B	B	B	「進路ファイル(キャリアパスポート)」を活用することにより、進路行事の記録を保管することができ、次年度への指導につなぐことができた。「進路のてびき」を家庭配付し、保護者と情報を共有できるようにした。	新型コロナウイルス感染症の影響がある中、進路に対して意欲を持たせることができています。	「進路ファイル(キャリアパスポート)」に取り組む時間を確保し、より充実した進路指導を目指す。
9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑰ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について前向きに考えている生徒が70%以上である。	B	A	B	生徒の進路実現に向けて、学年と協力し、卒業後の進路に対する意識をつくっていけるよう、生徒に対して丁寧な指導をおこなってきた。	概ね良好であるが、社会情勢が不安定な中、将来に対して不安を感じる生徒や保護者に適切な対応と対策をして欲しい。	日常の中で、卒業後のことを考えた行動がとれるように、学年、教務、生徒指導とも連携して、進路指導を行う。		
	⑱ 生徒の卒業後の進路について一度でも話し合いをした家庭が70%以上である。	B	B	B	「進路ファイル(キャリアパスポート)」を活用することで家庭での進路の話し合いの内容を担当が把握しやすいようになった。	社会情勢の変化が、生徒の進路に影響してくるので家庭で話す機会が増えるように工夫して欲しい。学年別の結果が分かると、分析、考察しやすくなる。	「進路ファイル(キャリアパスポート)」を活用し、家庭での進路についての話し合いがより活発になるようにしていきたい。		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 「学校の様子がよく分かる」と感じている保護者が70%以上である。	B	A	B	WEBページの随時更新等により、保護者や地域への広報活動を迅速に行うことができた。	WEBページでの情報発信は大変有効であるので、今後とも充実したWEBページ作成を継続して欲しい。	本校の特色やメッセージが、より多く伝わるような魅力ある内容のWEBページを作成していく。	
		⑳ PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	A	A	A	PTA行事も制限されたが、保護者の意識や意欲の高さに支えられPTA行事参加者が多く、円滑に各行事を運営できた。	学校とPTA役員、保護者の連携がしっかり取れており素晴らしい。さらに、魅力ある学校作りに取り組んで欲しい。	より多くの行事に参加できるように学校行事の内容を検証していく。長期休業中や休日のボランティア活動に保護者が参加できるように検討していく。	